

くつろぎたいわ



松江赤十字病院広報誌 第39号 (2012年 冬号)

■病院理念

松江赤十字病院は、地域の中核医療機関として、「高度」「良質」「公正」な医療を提供します。



平成24年の幕開け 院長 梶 公平

あけましておめでとうございます。昨年は日本にとって
も、世界各地でも大変な年でありました。山陰ではお正月
の大雪、東北では3月11日の大震災や福島原子力発電所
での燃料のメルトダウン、和歌山や名古屋での台風による
大水などがすぐにでもあげられます。世界においては、イス
ラム諸国での政権交代、ギリシャに始まったヨーロッパでの国
が破綻しそうな景気低迷、それはもちろんアメリカでもそ
うでありました。タイの洪水もマスコミを賑わせました。ウ
サマ・ビン・ラディンが死亡しましたし、リビアのカダフィ大

佐も殺され、さらに年末には金正日の死去も報じられました。世界が大きく変わった年だったような気がします。

日本の経済状態も悪化の道をたどっているようであり、東日本大震災の復興もまだまだ前途多難です。医療に関してもこのままではいけません。今後、急速に進む高齢化や医療の複雑化の中で、救急医療やがん診療など、急性期病院としてどのような展開ができるのか、職員の知恵を絞らないといけませんし、地域に働きかけていく必要もあると思っています。その一環として地域懇談会と称し、医療や当院の現状と問題点などを地域の方々にお知らせする会を昨年から開始しました。

病院は医師不足・看護師不足が続く、それにとれない医療の機能分担が必要となり、病院完結型医療から地域完結型医療へと転換の最中であり、地域の事情もあつて思うようにいかない部分もあります。今年も医療連携のIT化も含めながら進めていくことになりましょう。昨年も書きましたが、地域の皆さん方にはぜひ「かかりつけ医」を作っていただきたいと思っています。

平成19年に始まりました新病院建設は、高層棟がすでに完成し使用していますが、現在は6階建ての低層棟の骨格ができあがり、内部の工事が進んでいます。本年4月には完成し、6月には移転の予定です。高層棟屋上のヘリポートの使用も開始される予定です。皆さん方のご協力をお願いしたいと思います。

今年も何卒よろしく願い申し上げます。

病棟紹介 「ここにちほ、7階東病棟です」

7階東病棟は、呼吸器外科・婦人科・形成外科・乳腺外科の混合病棟です。手術や化学療法目的の入院患者さんが多く、10代から100歳を超える幅広い年代層、男女比1対2と女性の患者さんの多い病棟で日々、看護を実践しています。



医療連携室と連携を図っています。病棟としては、まだまだ歩み始めて間がありませんが、それぞれのチームと協働し知識や技術を深めながら、少しでも患者さんの苦痛の軽減を図れるよう努力しています。

2年前に新病院、高層棟がオープンしたときに新設された病棟です。病棟の目標を「提供した看護が、患者・家族、そして看護師の笑顔に繋がる病棟」として患者・家族の声に耳を傾け、思いにそった看護を提供できるように、みんなの笑顔が見たいとの思いで看護を行っています。患者さんの病状によっては、症状改善のために褥瘡、緩和ケア、NSTなどの各チームと協力体制をとっています。また、入院時から退院後の患者さんの生活を考え、地域

7階東病棟の強みは「団結力」です。何も形のないところからスタートした病棟ですが、

ここぞというときには病棟一丸となつて病棟の基礎を作り今日に至っています。スタッフ同士も仲が良く、新卒も活き活きと業務ができているのはとても頼もしく感じています。3年目を迎える

今年、「新設された病棟だから」は通用しなくなりそうです。スタッフ一人が考え、行動することで患者・家族の笑顔につながる病棟となるように、さらにステップアップしていきたいと思っています。

8階東西病棟でお茶会

8階消化器内科・外科センターで「お茶会」を開催しました。

栄養課に手作りお菓子をたくさん準備してもらい、お抹茶で一服。サテライトキッチンで開催したお茶会は、松江城にも劣らぬ大茶会となりました。

また、季節の風景を写したDVD観賞や看護師の演奏に合わせての合唱をしました。感激したのは患者さんのオーボエの独奏。力強い演奏に他の患者さんから「私たちは演奏される姿に力強さを感じ、感動した。これからの治療を頑張るぞと勇気が湧いてきました」とお礼のお手紙をいただくことができました。

短い時間でしたが、患者さんも職員も楽しいひと時を過ごすことができ、好評でした。



他にウサギの形をしたお菓子などもありました



患者さんに願いごとを書いてもらいました

職員が点てたお抹茶で一服



日常生活の中で小さな症状や前兆に気づき、自分の体に關心を持つことは大切。

大きな病気のサインの場合もあり、早期治療にもつながります。

「ドクター教えて からだ相談室」では、

当院の医師が、病気や対処法についてアドバイスします。

相談

最近、朝起きた直後から頭が痛く、胸もムカムカすることがあります。日中から夕方にかけて症状は収まるのですが、これまでになかった痛みなので心配です。(57歳、男性)

アドバイス

頭痛は筋肉の緊張によるものが多く、パソコン

頭痛は筋肉の緊張によるものが多く、パソコン

脳に腫瘍ができる

朝方に頭痛が起こるの

す。

他の部位の腫瘍が基にある転移性脳腫瘍に分けら

ドクター教えて からだ相談室

今回のドクター



松江赤十字病院 脳神経外科 中岡 光生 副院長

朝の頭痛

脳腫瘍に特徴的な症状

⑥ 作業で疲れがたまるなど、周囲の組織が圧迫され、夕方になるにつれて、頭蓋(ずがい)骨でないので、起きがけから

は、睡眠中に呼吸が抑えられ、頭蓋内の血液量が増えることで高まっていく圧力が、脳腫瘍による圧力に高くなるため、頭を打ったこともないのに、起きがけから腫瘍ができた場合、経過

は、睡眠中に呼吸が抑えられ、頭蓋内の血液量が増えることで高まっていく圧力が、脳腫瘍による圧力に高くなるため、頭を打ったこともないのに、起きがけから腫瘍ができた場合、経過観察することもあり、また、腫瘍が頭蓋内から発生する原発性脳腫瘍や、肺がんや乳がんなど、他の部位の腫瘍が基にある転移性脳腫瘍に分けら

食堂で楽しい食事

～カレーライスと牛丼を提供～



Aランチ カレーライス サラダ 果物

鶴と亀の愛称で親しまれていた「特別メニュー」は、高層棟の完成とともに休止して

患者さんから要望の多い「入院中に変わったものが食べたい」を受け、病棟食堂でカレーライスと牛丼を提供するイベントを開催しました。第1回目として9階病棟で行い、常食はもちろん、エネルギーコントロール食、たんぱくコントロール食、透析食、軟菜食、キザミ食など、多くの食種を対象にしました。



Bランチ 牛丼 サラダ 果物

「牛丼にしましょうか?」「カレーライスにしましょうか?」と事前に栄養士が患者さんから直接希望を聞き、イベント当日は、病室配膳の方は病室

へお届けし、可能な方は食堂へできる限り出てもらいました。長期入院の方からは「味付けが良いわ」「楽しい時間を過ごしました」と喜びの声を聞かせていただきました。入院して間もない方からは「あまりおいしくない」という厳しいご意見もありましたが、総合的には開催して良かったと思っています。その日の夜から病棟食堂の利用数も増え、にぎやかになりました。治療食としての制限はありませんが、食事は入院中の楽しみの一つです。全館一斉にイベントを開催するのは難しいですが、一時的なもので終わらせず、定期的に開催できるように計画していきます。

